

友人

稲田耕作

二月二十四日の正午すぎ、到々君は永かつた闘病生活に終止符を打ち、永久の休息につくことになった。市ヶ谷の病院で、君はいくたび冬の夜を送り、春の光を迎え、夏の暑さに耐え、秋の月に泣いたことであろう。君を見舞い、君を励ましてくれた人は、おびただしい数に上った。その中には、君にさきがけてすでに不帰の客となられた人も、一、三に止まらない。思えば、長い長い病氣との闘いであつた。

君は、その間、どこかで回復への転機を掴みとろうと、施すことができることは何でもやり、耐えられることはとことんまで耐え、必死の力を傾け尽した。近親の方々、病院の方々、そして君を思う数々の友人も、病勢好転の契機を求めて全力を傾け、凡ゆる支援を惜しみなく与えてくれ、心の限りの祈りを捧げてくれた。しかし、遂に君の苦しかった闘病生活の終わりが訪れたのである。その間、君はよく耐え、周囲の方々は、よく尽くしてくれた。私は、まず君の超人的な忍耐力をたたえるとともに、周囲の方々の心のこもつた、行き届いた心尽しに感謝したい。

君と私の交友は、昭和十二年の春、君が大学を出て大蔵省に奉職されたときから始まり、今日に至った。君は秀れた行政能力とたくましい体力に加うるに、明朗、闊達、かつ繊細な天賦の資質に恵まれていた。君は、先輩からは信頼され、同僚からは親しまれ、後輩からは慕われた。君の役人生活は、戦前、戦中、戦後を通して予算、税制、金融の分野はもとより二回にわたる英国在勤、さらに総理や蔵相の秘書官生活にもおよぶ多彩なものであった。その間、君と私は終始よく学び、よく遊び、友情の契りを深め、いつの間にか兄弟以上の付き合いになり、私の生涯は君を外しては考えられないことになってしまった。私は筆紙に尽せない程、君の友情に支えられ、なくさめられ、助けられてきた。君は私に対し一筋に醇厚な友誼に生きてくれた。私はそれを大きい誇りとも思い、かけがえのない俸せとも思っている。

君は退官後、日本長期信用銀行に奉職した。この銀行は、君と私が共に秘書官として仕えた故池田首相が、蔵相在職当時創設された銀行である。君がそこに職を得、友を得たことは本懐であったことと思う。その長銀はまた、君を遇するに最大限の配慮を示してくれたばかりでなく、君が病気になる前から、その内規が許す限りの処遇を与えてくれた。君も泉下にあつて、この長銀の暖い心尽しに對し、感激に浸っていることであろう。私もまた君の友人の一人として、君をあのよう厚遇してくれた長銀に對し、心から感謝したい。

君の生涯は、明るい活動的なもので、多くの友に恵まれ、多くの人に愛された倅せなものであった。君は、自らに求めるところ少なく、人のためにはかり、人のために尽すことが大きかった。しかし、君が病の床についてからは、人は進んで君のためにはかり、君のために尽して、君の友誼に酬いてくれた。君はいま、永久の休息について、君を中心にくりひろげられた友情の部厚い貸借対照表をながめながら、感謝と満足をもって、自らの生涯を回想されているに違いないと思う。

稲田君、どうか静かにお眠り下さい。